

## (仮称) 中根・金田台地区小学校開校に伴う通学区域についての要望書

令和3年11月1日

つくば市教育局 学務課長 殿

桜1丁目西自治会  
桜2丁目南自治会  
桜2丁目北自治会  
桜2丁目東区会  
桜2丁目中自治会  
桜3丁目16, 17自治会  
ウェルネスシティつくば桜区会

この度は(仮称)中根・金田台地区小学校(以下、新小学校と表記)開校に伴う通学区域案のご連絡、ありがとうございます。本通学区域案に関しまして、テクノパーク桜地区住民より、下記の通りお願い申し上げます。

## 【要望】

テクノパーク桜地区も新小学校の学区に含めてください。 主な理由は下記の通りです。

## 1. 児童の安全確保

当地区から現小学校(栗原小)迄の現通学路は事故・犯罪・傷病・災害等に対して脆弱。 新小学校までの通学路は格段に安全。

## 2. 通学距離の短縮

現通学路は2~3km あるところ(片道50分)、新小学校では通学距離が半分に短縮。

## 3. 災害に対する脆弱性回避

現小学校は桜川の氾濫浸水想定区域に位置。 災害時の児童の安全確保の観点からも、河岸段丘より上に位置する新小学校が望ましい。

## 4. 街の資産価値の維持

通学の利便性は若い世代の入居を促し、街の商業施設の維持にも影響する

## 5. 宅地開発時点での経緯、および市長への要望

数十年前より新小学校開設予定が販促に用いられ、その前提で購入した住民も多い。入居後も市長懇談会を開催、小学校が建設予定なので待つようにと言われてきた。

## 6. 栗原小の環境改善

老朽化した旧校舎から、新校舎に機能を集約できる。駐車場の混雑解消、安全性確保。

## 7. 街の長期的価値の維持は、市の掲げる持続可能な街作りにも沿う

## 【住民の意向】

10月下旬にテクノパーク桜地区の約300戸に対してアンケートを配布し、現時点で193戸から回答を得ております。結果は下記の通り、大多数が新小学校学区への編入を希望しております。

実施時期：2021/10/16～31、配付戸数：約300戸、回答数：193戸

新小学校学区への編入を希望する	188 ( 97% )
同、希望しない	5 ( 3% )

表1 アンケート結果：新小学校学区編入の希望割合

新小学校学区編入の希望理由（複数選択）		
（回答数： 193 ）		
（理由）	賛同数	比率
児童の安全確保	180	93%
通学距離の短縮	176	91%
災害に対する脆弱性回避	109	56%
街の資産価値の維持	95	49%
宅地開発時点での経緯、市長への要望	65	34%
栗原小の環境改善	59	31%
市の掲げる持続可能な街作りに沿う	59	31%

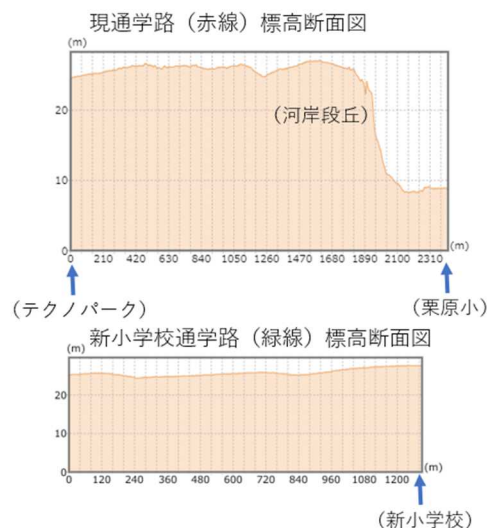
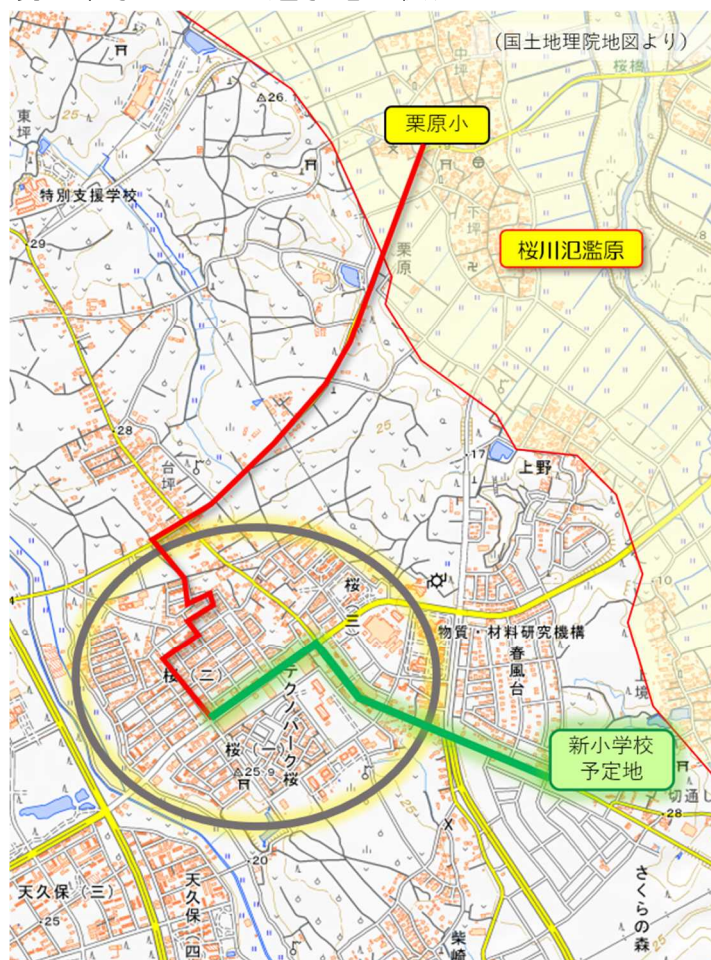
表2 アンケート結果：新小学校学区編入の希望理由

寄せられた意見（抜粋）：

- 距離が近く、事故や犯罪の恐れが少なく、人目も多い新小学校への通学を希望する。
- 遠い栗原小までの送迎は保護者に負担、共働き時代にも逆行。
- 子供達が登校時点で既に疲れている。特に夏期は熱中症も発生し、危険。
- 1日24時間しかない子供の大切な時間を、通学で約2時間も浪費している。
- 栗原小の児童の8割超が、新小学校の方が近い現状は異常である。
- 小学校が出来るとアピールして、住民を呼び込んでいたのにも関わらず、新小学校へ入れないとなると詐欺に近いものがある。
- 最寄りの小学校の学区に入らないとなれば、若い世代は転入しなくなり、街が高齢化・住人減少で衰退する。
- 市長懇談会（2018.7.29、2019.7.27）でも新小学校を繰り返し要望してきて、建設の方向と伺ってきた。
- 街や学校や住民を「使い捨て」にせず、計画的な建造と維持を。

## 【状況の詳細】

### 現・栗原小までの通学路の状況



- 栗原小までの通学距離：2～3km
- 児童は体力的に消耗（特に低学年）
- 夏期は熱中症の危険性
- 細く、人目も少ない道が多い
- 桜川氾濫時に0.5～3mの浸水が予想される区域（利根川水系桜川氾濫推定図より）
- 新小学校までの通学距離：1～1.5km
- 広く真っ直ぐ、かつ平らな道
- 人家・商店も多く、助けを求めやすい
- 河岸段丘の上で水害に強い

図1 栗原小および新小学校までの通学路

栗原小までの現通学路は大人でも片道40分、低学年の児童では50分以上かかります。特に小柄な児童では負担が重く、車で送迎する家庭も多く見られます。栗原小の駐車場は朝夕に車が入りきらず、児童と車両が交雑して日常的に危険な状況です。

写真1が栗原小学校前の交差点です。左奥に10台分程度の変則的な形状の駐車場があります。道も狭く、変則的な5差路です。さらに県道の急カーブ出口に位置しており、交通量も多い道路です。近年、遠方から送迎で通学する児童数の増加に伴い、登下校時は日常的に混雑し、いつ事故が発生してもおかしくない状況です。





写真1：現小学校（栗原小）入り口交差点

（国土地理院地図より）

現通学路は写真2のように歩道や信号が未整備の箇所が多く、また人家が殆ど無い区間もあり、事故や傷病、災害・犯罪等に対して脆弱です。



写真2：現通学路の様子

これに対して新小学校までの想定通学路は歩道や信号が完備されており、また人目や人家も多い経路です。新小学校であれば距離が大幅に短縮されるだけでなく、格段に安全になります（写真3）。



写真3 新小学校までの想定通学路の様子

テクノパーク桜地区住民は25年以上前から入居時に新小学校の計画を聞かされてきました。若い世代の継続的な入居によって街の環境が長く維持されるのを期待していたところ、今回の原案は寝耳に水であり、特に現役世代にとってはショックの大きな話です。児童の安全確保、家庭の負担軽減および共働きの支援、生活環境の維持や持続性の観点から、新小学校の学区への編入を強く要望いたします。

以上